

天然記念物

湯の滝はいま？

紅葉狩りかねて 現状を見にいこう

オンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地

湯の滝は全面的に保護
一部撤去しました



駆除

作業をおこないます

湯の滝(右滝)

足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

No. 96

2008年 9月24日発行

089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 電話 0156-25-9100 ファックス25-9101

Eメール staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

ホームページ <http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp> (博物館だよりpdf版あり)

足寄動物化石博物館 開館から10年

開館以来10年間、足寄動物化石博物館はなにをしてきたのか、連載しています。

5 この10年にひろめたこと(2)

「研究報告」は、博物館が収蔵する資料の意味や研究成果を世界に広める重要な活動です。この10年間は、茂螺湾産出の「歯のあるヒゲクジラ」をベースに、現生ヒゲクジラの胎児の解剖などをおこない、ヒゲクジラの特徴である「クジラヒゲがどのように出現したか」の解明に多角的に取り組んできました。

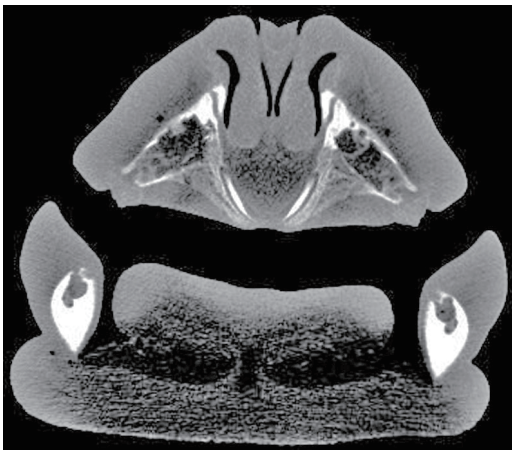
○クジラヒゲについて研究報告

開館の翌年からクリーニングに取り組んだ AMP14 (当館の標本番号) は、2000 年になってモラワノケトゥスの新しい標本だということが判りました。ギザギザの突起がつらなる臼歯の列 (写真) の内側には血管がとおる小さい穴がたくさん並んでおり、そこにはクジラヒゲがはえていた可能性がでてきました。それを証明するために、ほかの動物との比較、南極海の調査捕鯨で得られたミンククジラの胎児の解剖などをすすめ、国内の6学会と4つの国際学会で、研究の進展状況を報告してきました。



AMP14(モラワノケトゥス)の臼歯の列

いままでは、クジラヒゲは家畜などの口の天井にある洗濯板のようなヒダ (横口蓋ヒダ) が長く伸びたものだ、と考えられてきました。しかし、足寄の研究の結果、クジラヒゲは、臼歯のすぐ内側の歯肉 (歯茎) の粘膜が変化してできたものだということがわかりました。



ミンククジラ胎児頭部のCT写真

この研究の過程では、帯広畜産大学の協力を得て、クジラ胎児のCT撮影 (コンピューター断層撮影) をおこないました (写真)。米国スミソニアン博物館の研究者によるとヒゲクジラのCT撮影は世界初だそうで、足寄産の化石とあわせて注目を集めています。

おなじみのクジラのヒゲ=ヒゲクジラが発明したヒゲ。このクジラヒゲの起源についての学説を茂螺湾のクジラが書き直すことになりそうです。いままでの学会発表の要点を、7月発行の足寄動物化石博物館紀要第5号にまとめました。

休館日 || 10月 7日 14日 21日 28日 の火曜日

博物館の動き 10月 (館の行事や職員の動き、来館団体、など)

1日	下音更小学校のみなさん	21~	足寄小学校のみなさん
4日	音別中学校PTAのみなさん	22日	展示見学・地層見学・化石探し
10日	旭町ふれあいクラブで講話(館長) 足寄青色申告会で講話(館長)	23~	北海道博物館協会ミュージアム
15日	新得やすらぎ荘のみなさん	24日	マネージメント研修会(苫前町)